



平成 28 年 4 月 25 日

各 位

会社名 石塚硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長 石塚 久継
(コード番号 5204 東証・名証第一部)
問合せ先 取締役執行役員経営企画部長
畔柳 博史
電話番号 (0587-37-2111)

「中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社グループは、平成 29 年 3 月期（第 82 期）から平成 31 年 3 月期（第 84 期）までの 3 ヶ年を対象とする中期経営計画を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

石塚硝子グループ中期経営計画 『Next Stage ISHIZUKA 84』

当社グループは、ガラスびん・ハウスウェア・紙容器・プラスチック容器・産業器材へと事業領域を拡大してきましたが、新たな 3 ヶ年においては財務体質改善と各事業を横断した機能強化を図り、さらなるステージへ邁進していきます。

1. 基本方針

コンセプト 「グループ総合力の結集」

(1) 営業利益の安定的確保

営業利益率 3 % が安定的に確保できる企業体質にしていきます。

(2) 有利子負債の削減

毎年 10 億円程度、3 年間で 30 億円の有利子負債を削減します。

(3) グループを横断した機能強化

カンパニーやグループ会社という組織の枠を超え、横断的に課題の解決を図ります。

2. 各事業を取り巻く環境と戦略の方向性

【ガラスびん関連事業】

ガラスびん市場の中期的な需要バランスに対応するため、第82期から第83期に炉体制を再編成します。お得意先及び市場ニーズを先取りした提案と品質の確保により新製品の受注を拡大し、利益体質への改善を図ります。

【ハウスウェア関連事業】

国内ガラス食器市場では、低価格品と高価格品の二極化が進み、ネット販売も急拡大しています。岩倉工場での生産量をしっかりと確保したうえで付加価値開発による収益力アップを図っていきます。陶磁器ではリテールにおける国内百貨店売り場の縮小に対応し、リソースの選択と集中を図る一方、インバウンドやオリンピック開催に向けたホテルやレストランでのニーズに対する提案力を強化していきます。海外市場では、EU情勢不安や中国経済減速の影響を受けて売上が減少していますが、比較的好調な米国や市場優位性のある東南アジアへの販路開拓に取り組んでいきます。

【紙容器関連事業】

紙容器の需要はここ数年減少基調にあります。市場と顧客の動向を的確にとらえ、効率の良い生産体制を再構築するとともに、新たな分野での需要を積極的に開拓します。また、原紙調達における為替の変動が収益に大きく影響するため、為替リスクをヘッジできるビジネスモデルを追求していきます。

【プラスチック容器関連】

PETプリフォーム事業においては、これまでのローコスト・高品質生産体制の追求に加え、リサイクル原料を活用した販売戦略と、他分野への提案を積極的に進めていきます。樹脂容器市場においては、サプリメントや医薬品向けが伸張しており、高付加価値製品の開発と提案営業を推進して新規開拓に取り組みます。

【産業器材関連事業】

産業器材事業では、消費増税の反動によりIHクッキングヒーター及びガスコンロ向けトッププレートの需要が伸び悩みましたが、新規顧客の開拓と商品の差別化を強化して、事業の多様化と安定化を図ります。

【その他事業】

抗菌剤事業では、市場の求める性能とコストの追求をおこない、新興国市場への展開を図ります。金属キャップにおいては医療分野におけるジェネリック台頭などの変化を的確に把握した営業を推進していきます。

以上